

## 平成 20 年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する事業を行いました。

スポーツ振興の分野においては「陸上競技支援」と「自然体験活動支援」を中心に、青少年の健全育成を目的とした事業を、食文化振興の分野では「食創会 安藤百福賞表彰」と「インスタントラーメン発明記念館運営」の事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告します。

### 1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走ることの楽しさと仲間とふれあうことの喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を昭和 60 年より支援しています。

#### (1) “日清食品カップ” 第 24 回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

- ・主催：日本陸上競技連盟
- ・後援：文部科学省他

6 月 7 日の岐阜県大会を皮切りに 7 月 26 日まで 1 ヶ月半にわたり 47 都道府県で開催された都道府県代表を決定する予選大会と、8 月 29 日、30 日に国立霞ヶ丘競技場で開催された決勝大会を後援しました。

決勝大会では、未来のオリンピック選手を目指す選手たちが熱戦を繰り広げ、大会新記録が 2 種目で 4 つ記録されるなど好記録が続出しました。表彰式には、末續慎吾選手をはじめ 4 名の北京オリンピック代表選手がプレゼンターとして参加しました。

また、決勝大会当日、全国の各都道府県から選ばれた 47 名の指導者に対して、少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」の表彰が行われました。これは、子どもたちの心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えのもと、日頃から小学生の陸上競技の指導に取り組まれている指導者を表彰するものです。

また、決勝大会の開会式において、安藤百福前理事長の長年にわたる日本陸上競技界への貢献に対して、日本陸上競技連盟より「功労章」が授与されました。

昭和 60 年に「第 1 回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートした本大会は、今や子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。また、本大会出場選手の中から国際舞台で活躍する選手が多数輩出しており、北京オリンピックでは末續慎吾選手、高平慎士選手、森岡紘一朗選手、池田久美子選手の 4 名が出場、そのなかで末續慎吾選手、高平慎士選手が男子 4×100m リレーにおいて銅メダルを獲得し、本大会出身者から初のオリンピックメダリストが誕生しました。

- 【実施日】 ① 予選大会 平成20年6月7日(土)～7月26日(土)  
② 決勝大会 平成20年8月29日(金)～8月30日(土)
- 【場所】 ① 予選大会 全国47都道府県予選大会の開催競技場  
② 決勝大会 東京・国立霞ヶ丘競技場
- 【参加選手数】 約12万人
- 【内容】 47都道府県で開催された予選大会に入賞メダルや参加賞を贈呈しました。決勝大会は、友好レース男女100m終了後、男女の5年100m、6年100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、4×100mリレー、ソフトボール投と、陸上競技の「走・跳・投」の3要素の競技がそろって実施されました。大会の熱戦の様子は、9月7日(日)NHK教育テレビで全国に録画放映されました。
- 【事業費】 100,000,000円

(2) “日清食品カップ”第11回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

- ・主催：日本陸上競技連盟
- ・後援：文部科学省他

本大会は、発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成10年度からスタートしました。全国47都道府県の代表チームに、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加しました。

本大会の第1回大会に出場し、その後、箱根駅伝等で活躍している佐藤悠基選手(現・日清食品グループ陸上競技部)が、平成20年3月に開催された第36回世界クロスカントリー選手権大会に日本代表選手として出場するなど、夏開催の小学生陸上競技交流大会と同様に、長距離走においても本大会の出場選手の中からも国際舞台で活躍する選手が育ってきています。

- 【実施日】 平成21年3月21日(土)～22日(日)
- 【場所】 池田市・呉服小学校、万博記念公園特設コース
- 【競技内容】 クロスカントリーリレー(1区間1.5km 6区間 男女交互のリレー)  
友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル
- 【参加選手数】 950名
- 【内容】 3月21日、池田市立呉服小学校にて開講式と研修会を開催しました。参加選手や指導者を対象に、日本陸上競技連盟普及指導委員と日清食品グループ陸上競技部所属でアテネオリンピック男子マラソン代表の諏訪利成選手、本大会出身者の佐藤悠基選手による研修会を行いました。オリンピックや箱根駅伝に出場した体験談や、日常のトレーニングと食生活や大会出場の心構えなどについて子どもたちの質問に答えるなど、終始和やかな雰囲気で行われました。
- 22日には、万博記念公園内に設けられた1周1.5kmのクロスカントリー

リー特設コースにて友好タイムトライアル男・女各1組のレースに続いて、参加50チームによる6区間でのクロスカントリーリレーが行われました。

【事業費】 18,000,000円

## 2. 自然体験活動支援事業

自然体験は子どもたちの体力だけでなく、創造力や自活力、思いやりの心を育みます。当財団では「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」を主催し、子どもたちの健全育成のための自然体験活動の推進と普及に取り組んできました。

また、子どもたちの自然体験活動を支援する「指導者を養成する上級指導者」の登竜門を目指し、平成22年4月、わが国初の自然体験活動指導者養成専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」を長野県小諸市に設立を予定、また、本年度より自然体験指導者養成カリキュラムの開発をスタートしました。

### (1) 自然体験活動支援事業

「第7回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」

・後援：文部科学省、池田市、自然体験活動推進協議会他

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、選考の上、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体に各10万円の実施支援金を贈呈しました。支援した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門は文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門は安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰しました。

また、優秀賞には及ばなかったものの、企画内容がユニークであり、さらなる発展が期待できる団体に対して、「トム・ソーヤー奨励賞」を表彰しました。なお、今回活動を支援した50団体の自然体験活動には、子どもたちと指導者をあわせて約8,300人が参加しています。

また、1月31日に開催した表彰式には、教育関係者や自然体験活動指導者をはじめ250名の参加があり、平成11年にエレバスト登頂に成功し、25歳で当時の「世界7大陸最高峰」最年少登頂記録を樹立し、現在環境問題にも精力的に取り組んでおられるアルピニスト・野口健さんの講演会も開催しました。

#### 【トム・ソーヤースクール企画コンテスト表彰団体】

##### ◆ 学校部門

・文部科学大臣奨励賞（副賞：賞金100万円、チキンラーメン1年分）

団体名 伊那市立伊那小学校3年明組（長野県）

企画名 「ぼくらは林大すき隊 ～もっと林を楽しくしちゃおう～」

・優秀賞（副賞：賞金50万円、チキンラーメン半年分）

団体名 高崎市立北小学校エコクラブ 地球防衛隊（群馬県）

企画名 里山自然体験「七夕山」活動

◆ 一般部門

- ・安藤百福賞（副賞：賞金 100 万円、チキンラーメン 1 年分）

団体名 特定非営利活動法人ナック（大阪府）

企画名 「ノアむしむし探検隊 ～年間を通して、ノアの森でむし探しをしよう～」

- ・優秀賞（副賞：賞金 50 万円、チキンラーメン半年分）

団体名 安芸青年ホール（広島県）

企画名 「ほっぷ すてっぷ きゃんぷⅢ」

◆ トム・ソーヤー奨励賞（副賞：チキンラーメン半年分）

- ① 団体名 独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立立山青少年自然の家（富山県）

企画名 「チャレンジ&チェンジ！真夏のアドベンチャー

～海拔 0m～3,000m への挑戦～」

- ② 団体名 冒険教育を推進する会（長野県）

企画名 「おたり森の子クラブ 2008」

- ③ 団体名 岡崎市立千万町小学校（愛知県）

企画名 「みんなが主役！手作りワイルドキャンプ！」

- ④ 団体名 京都産業大学附属中学校（京都府）

企画名 「京都の森と水探検、調査」

- ⑤ 団体名 菊炭友の会（兵庫県）

企画名 牧の台小学校「里山体験学習～クヌギを通して里山を知る～」

- ⑥ 団体名 広島県山岳連盟（広島県）

企画名 「わんぱく登山部」

【表彰式】

- ・開催日 平成 21 年 1 月 31 日(土)

- ・場所 インスタントラーメン発明記念館

- ・来賓 坂元 譲次 文部科学省 スポーツ・青少年局 生涯スポーツ課長

倉田 薫 池田市長

村田 陽 池田市教育長

- ・講演会 野口 健（アルピニスト） 演題「富士山から日本を変える」

【事業費】 10,678,744 円

(2) 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週 5 日制が施行された平成 14 年にスタートしました。安藤財団では、「自然体験.com」を通じて自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げています。

このホームページを通して、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や活動状況も伝えています。本年度の実施支援団体の活動状況を伝える速報レポートや活動報告書

も掲載しており、その件数は前年度より 68 件増の 185 件となります。

また、本年度ホームページをリニューアルしました。活動報告書をデータベース化し、検索機能を設け、ユニークな自然体験活動の情報を提供しております。

【開設日】 平成 14 年 4 月 1 日

【アドレス】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 6,854,000 円

### (3) 自然体験指導者養成事業「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」の設立

子どもたちの「自活力」を育むために、自然の中での体験活動が有効であると言われて  
いる一方で、わが国においては子どもたちの活動を支援する指導者と、その指導者を養成す  
る“上級指導者”の数が著しく不足しています。

そこで当財団は、「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」を設立し、“上級指導  
者”の育成と指導カリキュラムの研究開発などを行い、自然体験活動のさらなる振興と活性  
化を図ります。

#### 【事業目的】

- ① 養成・研修講義や実技演習とともに、宿泊可能なわが国初の自然体験活動の上級指導者養成専門施設として、自然体験活動の“上級指導者”の登竜門を目指します。
- ② 自然体験活動の「指導者を養成する上級指導者」の講義と実習のほか、指導者養成カリキュラムの研究開発などを行い、わが国における自然体験活動の振興と活性化を図ります。

#### 【施設概要】

- ① 名称：「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」（仮称）
- ② 所在地：長野県小諸市大久保（浅間連峰を正面に望む標高 700m の高台）
- ③ 広 さ：敷地面積 約 37,200 m<sup>2</sup>（約 11,200 坪）  
建物延床面積 約 2,080 m<sup>2</sup>（約 630 坪）
- ④ 構造：鉄筋コンクリート+鉄骨造 地上 2 階、地下 1 階
- ⑤ 竣工：平成 22 年 4 月予定
- ⑥ 設計者：隈 研吾（東京大学大学院 教授）
- ⑦ 設備：宿泊室（50 名）、セミナーホール（最大 200 名、間仕切り時 100 名）  
会議室（2 室・各 20 名）、食堂、厨房・自炊室 他

なお、10 月より、小諸市「信州青少年の家」を仮施設として、活動をスタートしております。

【事業費】 7,282,330 円

### 3. 食文化支援事業

「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発についての支援・普及活動を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に、平成8年に「食創会」が創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する独創的な研究者、開発者ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。大賞（副賞：賞金1,000万円）や優秀賞のほか、平成18年度より新設された発明発見奨励賞は、大学等の若手研究者や中小企業の開発者を受賞対象としています。「安藤百福賞」は食文化振興の中心的事業として、本年度で13回目を迎えました。

今回は、優秀賞に3件3名、発明発見奨励賞に3件4名の方が受賞され、3月11日、東京・ホテルニューオータニにて表彰式および受賞講演会を開催しました。

#### ◇ 食創会「第13回安藤百福賞」

後援：文部科学省

#### 【第13回安藤百福賞受賞者】

##### (1) 安藤百福賞 優秀賞（副賞：賞金各200万円）

- ・「生体を模倣した味覚センサの開発」  
都甲 潔 氏（九州大学大学院 システム情報科学研究院長・教授）
- ・「油脂のおいしさの研究」  
伏木 亨 氏（京都大学大学院 農学研究科 食品生物科学専攻 教授）
- ・「母乳中に存在するビフィズス菌増殖因子の発見とその代謝系の全解明」  
山本 憲二 氏（京都大学大学院 生命科学研究科 教授）

##### (2) 安藤百福賞 発明発見奨励賞（副賞：賞金100万円）

- ・「粉末大根おろしの開発」  
馬上 元彦 氏（こだま食品株式会社 商品企画開発部 次長）  
大石 清三 氏（こだま食品株式会社 商品企画開発部 主任）
- ・「日本初のさつまいも澱粉麺の開発」  
野口 愛子 氏（日本有機株式会社 代表取締役社長）
- ・「未利用資源の有効活用、副産物『梅酢』によるおいしい鶏肉・鶏卵『紀州うめどり・うめたまご』のブランド化」  
細川 清 氏（株式会社紀州ほそ川 代表取締役社長）

#### 【安藤百福賞表彰式・受賞記念講演会】

- ・開催日 平成21年3月11日(水)
- ・場所 ホテルニューオータニ(東京)
- ・来賓 河村 建夫 内閣官房長官  
石波 茂 農林水産大臣

【実施費用】 18,113,416円

## 4. インスタントラーメン発明記念館運営事業

当財団が運営するインスタントラーメン発明記念館は、平成 11 年にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館しました。平成 16 年 11 月には、従来のおよそ 2 倍の規模に拡張新築し、展示と体験工房を充実させて、インスタントラーメンの発明から産業として世界に広がった歴史を通して、発明・発見の大切さを伝える体験型食育ミュージアムとして、高く評価されています。

【所在地】大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

【来館者数】477,000 名

- チキンラーメン手作り体験工房体験者数 : 43,000 名
- マイカップヌードル・ファクトリー体験食数 : 252,000 食

【施設概要】

- 敷地面積 : 3,888 m<sup>2</sup>
- 延床面積 : 2,919 m<sup>2</sup>
- 展示ホール : 1,095 m<sup>2</sup>
- セミナーホール : 303 m<sup>2</sup>

### ◇ 来館者 200 万人達成

9 月 17 日、平成 11 年 11 月、開館以来の来館者が 200 万人に到達し、「200 万人ご来館ありがとうございます」記念イベントを開催しました。平成 18 年の 100 万人達成からおおよそ 2 年での 200 万人達成となり、インスタントラーメン発明 50 周年の年に花を添えました。全国各地から来館者が増え、学校の総合学習や修学旅行の場として定着しつつあること、新しい世界の食文化となり海外からの来館者も増えたことがスピード達成の一因です。

## 5. 青少年の健全育成を目的とする支援・協賛事業

(1) 「スポーツの感動を地域へ！未来へ！」をテーマに開催された「生涯スポーツコンベンション 2009—人・スポーツ・未来—」（主催：文部科学省他）に協賛しました。

【実施日・場所】平成 20 年 2 月 4 日(水) 東京・京王プラザホテル

【協賛金額】500,000 円

(2) ユネスコ共同学校である大阪教育大学附属高等学校池田校舎の「国際感覚を持ち、経済、文化的リーダーシップのとれる人材育成」を目指す教育活動を支援・協賛しました。

【協賛金額】3,000,000 円

以上